

主な出来事

【内政】

- 離党に関する憲法改正法案が国会を通過
- 夜間外出禁止令の発出

【外政】

- 密猟者と思われるナミビア人を殺害したことで2国間関係に摩擦

【経済】

- 新規電力プロジェクトの80%以上を再生可能エネルギーへ
- Sandfire Resources社(豪)による銅・銀鉱床の開発決定
- ボツワナ初衛星プロジェクトの打ち上げ
- 公定歩合を3.75%に据え置き
- 穀物の生産状況
- 火力発電所のパフォーマンス向上
- 貿易赤字が継続
- ダイヤモンドの第3四半期までの生産量は、前年比71%
- GDP6%減少

【内政】

○ 離党に関する憲法改正法案が国会を通過

12月17日、離党に関する2020年憲法改正法案(国会議員)及び地方自治法改正案(地方議員)が国会を通過し、法制定には大統領が署名するのみとなっている。これら改正法案が成立すれば、国会議員及び地方議員が離党すると自動的に議席を失い、予備選挙が開催されることになり、より離党することを難しくする意図がある。与党 BDP(ボツワナ民主党)は、同改正法案の目的は投票者の利益を守り民主主義を育てることだと主張し、一方の野党は、BDP 党員が野党、特に BPF(ボツワナ愛国戦線党。カーマ前大統領により作られた政党)へ入党することを阻止するための利己的な措置だとして批難している。そのような状況下の同17日、Pono Moatlhodi 野党連合 UDC(民主改革のためのアンブレラ)議員が離党し、BDP に入党したことで大きな波紋を呼んでいる。

○ 夜間外出禁止令の発出

12月23日(水)、マシシ大統領は国営放送BTVを通じ、COVID-19 に関する声明を発表し、年末年始の感染拡大を防ぐため、12月24日(木)から明年1月3日(日)までの午後7時から午前4時の間を外出禁止とする旨発表した。

【外政】

○ 密猟者と思われるナミビア人を殺害したことで2国間関係に摩擦

12月30日、マシシ大統領及びガインコブ・ナミビア大統領は、11月5日にボツワナ国防軍が密猟者と思われるナミビア国籍者を殺害したことで両国間に摩擦が生じていた件につき共同声明を発出し、両国による共同調査が完了し、現在両政府により同内容が精査されていると述べた。また、両政府は再発防止に向けて努力することを確認し、両首脳は両国民に対し、引き続き平静を保つよう呼びかけた。なお、これまで両政府は、ナミビア国籍者4名が殺害されたとしてきたものの、本共同声明では、ナミビア国籍者3名及びザンビア国籍者1名とされている。

【経済】

○ 新規電力プロジェクトの80%以上を再生可能エネルギーへ

15日、モアヒ鉱物資源・環境保全技術・エネルギー安全保障大臣は、2020—2040年の総合資源計画(IRP)を発表し、再生可能エネルギーの割合を現在の2%から15%に増加することを目指すことを明らかにした。

現在、ボツワナは、ピーク時電力需要600MWのほとんどを、石炭火力発電にてまかなっているが、同計画では、2040年までに開発・調達予定の新たな発電計画1,540MWのうち、80%以上(1,240MW)が、再生可能エネルギープロジェクト(コールベッド・メタンプロジェクト(100MW)、太陽光ソーラーPVプラント(最大735MW)、大規模蓄電プロジェクト(最大140MW)等)となっている。

○ Sandfire Resources 社(豪)による銅・銀鉱床の開発決定

Sandfire Resources 社は、カラハリ・カッパーベルト地域(ボツワナ北西部)に位置する「T3 Motheo 銅・銀鉱床」の最終フィージビリティ・スタディを完了し、約2億6千万米ドルの初期投資を行うことを決定した。生産開始は2023年を予定、メインライフ12.5年の間、9億8千7百万米ドルを生み出すことが予測されている。建設時には1,000人、操業時には600人の雇用創出が見込まれており、95%をボツワナ国民とすることを目標としている。

○ ボツワナ初衛星プロジェクトの打ち上げ

18日、ボツワナの衛星技術プロジェクトである「Sat-1 プロジェクト」が公式に始動した。本プロジェクトは、ボツワナ国際科学技術大学(Botswana International University of Science and Technology: BIUST)が実施し、ボツワナが初めて衛星を開発・打ち上げを目指すものである。期間は3年で、その間にボツワナが独自に開発した3~12個の衛星を打ち上げることを目指している。本プロジェクトは主に観光(リアルタイム・バーチャル・ツーリズムの促進)及び農業セクター(スマート・ファーミング)改善のためのデータ収集を目的としている。

○ 公定歩合を3.75%に据え置き

12月3日、金融政策委員会が開催され、ボツワナ銀行(中央銀行)は公定歩合を3.75%と据え置くことを決定。インフレ率は、9月の1.8%から10月は2.2%へと増加したものの、ボツワナ銀行の目標とする3-6%のインフレ率を下回っている。

○ 穀物の生産状況

2004年と比較し2015年の主要作物は、ソルガムで11,756から35,508トンへ増加、メイズは7,536から3,972トンへ減少、ミレットは2,697トンから555トンへ減少、豆類は2,177から7,182トンへ増加。

○ 火力発電所のパフォーマンス向上

第3四半期の自国発電量は204,744MWH(前年比で51.2%増加)。2020年は第三四半期までの発電量のうち自国発電量割合は61%(前年は48%)で、残りを主に南アから輸入。増加原因は主にMorupule A及びB火力発電所のパフォーマンスが向上したことに起因。

○ 貿易赤字が継続

2020年第3四半期は、13,234.4百万プラで、第2四半期の4387.2百万プラから大幅に改善したが、輸入は19,983.9百万プラで貿易赤字が続いている

○ ダイヤモンドの第3四半期までの生産量は、前年比71%

2020年第3四半期に72.5となり、2019年第3四半期に記録された85.8から15.5%の前年同期比減少。なお、2020年度の第2四半期は30.0であり第3四半期は142%の大幅増加。主要鉱物であるダイヤモンドの第3四半期までの生産量は、前年比71%。

○ GDP6%減少

2020年第3四半期までは、昨年同期比6.0%の減少。